

タスマニアが教えてくれた多文化共生

大手前高松高等学校
普通科2年 伊藤 和奏

私は今回のオーストラリア・タスマニア派遣で、「多文化共生の在り方」と「移民」をテーマに、インタビューを通して貴重な一次情報を得ることができました。この経験は私にとって大きな学びとなりました。ホバート市長やホストファミリー、ホバートカレッジの先生方にご協力いただき、日本にいただけでは得られなかった多様な観点から自分のテーマについて見つめ直すことができたからです。

私たちが研修生として向かったオーストラリアは人口の三割が海外生まれの移民で、住民の約半数は両親のどちらかが海外生まれなのだそうです。ホバートカレッジで受けた英語の授業では、イギリスが植民地にして以来、白豪主義の政策を経て、第一次世界大戦やベトナム戦争によって、よりたくさんの移民がオーストラリアの国際色を豊かにしてきたことも学びました。

そんなオーストラリアに住む方々に「移民を受け入れるメリットはなんですか？」と尋ねたところ、全員が一致して「彼らが持ち込んでくれる文化がオーストラリアをより面白くしてくれるところだ。」と返してくれました。確かに、思い返せば研修中の行き先にそれらを強く感じるものが多かったように思います。ホストファミリーに連れて行ってもらったサランカマーケットや観光していたシドニーの屋台でも、タスマニア特有のお土産品があればイタリアやトルコ、ブラジル、中国にスペインにインドまで！グローバルな食べ物や異国的なアクセサリなども売られていました。街のたった一部分で世界一周旅行が味わえるのは素敵だなと感じるのに加え、互いの文化を認め合うのに一番わかりやすい結果なのだろうとも思いました。

また、ホストファミリーが教育の観点から、「さまざまな人種や全く違うバックグラウンドの子たちと育つことで、すごく多様な視点から物事をみることができる人になれると思う」とおっしゃっていました。正解を自分で作り出さなければならない時代になっている今、多様な観点を身につけられる環境にいるオーストラリアの子どもたちがすごくうらやましいです。

しかし、デメリットを聞いた際に挙がったのは、意外にも家と仕事という、生きていくための身近なものでした。タスマニアに限らず、オーストラリアでは家を建てるハードルが高いそうです。移民の他人同士でルームシェアをしていることが多く、ひどい場合はホームレスになってしまう人もいます。これらの人の数が少なくないので、問題として取り扱われています。

また、仕事の能力値が高い移民が来ることによって、オーストラリアで生まれ育った人たちが仕事を失ってしまうそうです。技術発展はしやすいですが、もともと住んでいた人が仕事

を失ってしまうのは、確かに少し引かかる部分があります。日本では足りない労働力を外国人の方々に補ってもらっているというイメージであったため、それに対して衝撃を受けました。

市長によると、やはり、移民同士で宗教が違うことによる衝突もあるそうです。ギャングのファイトも生まれやすいそうで、少し怖くなりました。日本は宗教的に独特の価値観を持っています。日本人の多くが八百万の神々として受け入れている分、宗教の縛りのようなものは受け入れ難い人が多いのではないかと感じている私にとっては、日本が移民を受け入れることに対しての不安要素の一つとしてあげられるであろうと思いました。

オーストラリアの原住民であるアボリジニは、いまや3%しか残っていないのです。ですが、率先して彼ら独自の唯一無二の文化の保護活動も行われていて、原住民へのリスペクトを欠かさないようにしているそうです。これに日本文化と重なるものを感じました。着物や茶道や華道などは昔に比べて日常生活には少ないものの、和の心を大切にして活動続ける人もいて、昔ながらの素晴らしい文化を継承していくことの大切さも自分の中に刻まれました。

そして、この研修で心の支えの一つとなったのが、タスマニアの方々のやさしさと親切さです。タスマニアの方々はすごく優しくて陽気で笑顔がいっぱいでした。トイレのドアを押さえて開けてただけで笑顔をほころばせて「ありがとう！」と言ってくれたり、授業と一緒に受けて仲良くなった子は「あなたと出会えてよかった、これからずっとよろしくね」と言葉をくれる子がいたり、心があたたかくなることを積極的に表現する人が多いように感じました。大学の先生もフレンドリーで、ハグしてくれた先生もいらっしゃいました。

そして、彼らはとてもオープンです。日本人なら恥ずかしがる趣味や、あまり言わない病気のこともオープンに話していました。話して受け入れられる環境が当たり前なもの、多文化国家ならではの魅力です。

日本語クラスではやはりアニメが人気のようで、一緒に盛り上がる事が出来ました。小学校では、Kpopが人で、人気アーティストの曲と一緒に踊ったり歌ったりして楽しみました。アジアという遠い地域のものがインターネットや移民を通じてオーストラリアという島国で親しまれていることは、グローバル化の面白いところだなあと感じました。これらの経験から、文化や音楽、アニメなどの娯楽はすんなり受け入れられて文化を共有できていると感じたので、他の受け入れられるのが難しいと思われる文化について、どうすれば共生できるようになっていくのか、深い相互理解に至ることができるのかについても探求していきたいです。

この研修で過ごした、学びと成長と希望に満ち溢れた13日間を絶対に糧にして、これからの日本や香川がよりよくなるように考え続けていきたいです。



8月4日 日本語クラスの生徒たちと自己紹介ゲーム